

2026年度 長崎大学大学院多文化社会学研究科 入試概要

出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。

指導教員の連絡先がわからない場合は、10ページのQRコードからご確認ください。

博士前期課程 (入試区分: 一般入試、外国人留学生入試)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	10名 ※全ての入試区分を含む ※7月期募集で6名程度、2月期募集で4名程度を選抜予定。	修士 (学術) Master of Arts

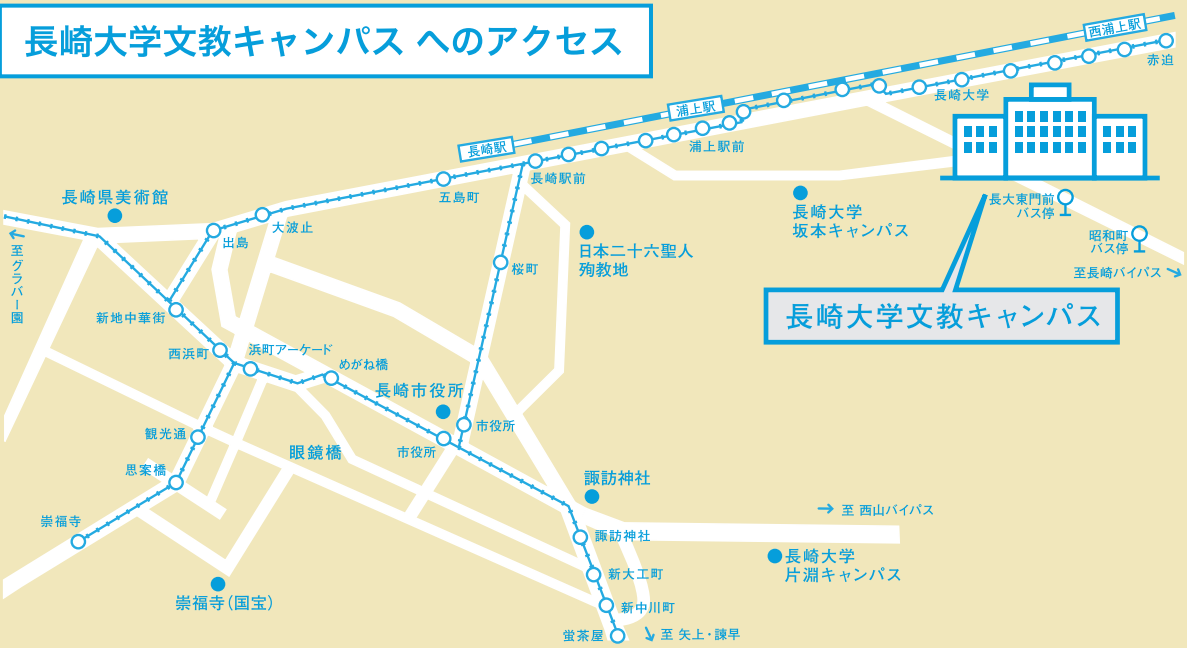
	2025年7月期募集	2026年2月期募集
出願期間	2025年5月26日 (月) ~ 5月30日 (金) 17:00	2025年11月25日 (火) ~ 11月28日 (金) 17:00
試験日	2025年7月26日 (土)	2026年2月17日 (火)
選抜方法	筆記試験: 専門科目 (人文社会科学系)	
	口述試験: 面接 ※研究計画書等に基づく試験	口述試験: 面接 ※研究計画書及び卒業論文等に基づく試験
	TOEFL iBT®テスト, TOEFL ITP®テスト, 又はIELTSの成績	TOEFL iBT®テスト, TOEFL ITP®テスト, 又はIELTSの成績

博士後期課程 (入試区分: 一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、進学者選考)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	3名 ※全ての入試区分を含む	博士 (学術) Doctor of Philosophy

	2026年1月期募集
出願期間	2025年11月25日 (火) ~ 11月28日 (金) 17:00
試験日	2026年1月24日 (土)
選抜方法	口述試験: 出願書類の内容審査を行う口頭試問

長崎大学文教キャンパス へのアクセス

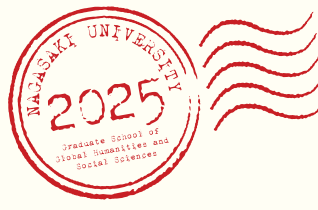


長崎大学人文社会科学域事務部多文化・教育学事務課 (多文化社会学系)
〒852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14 TEL.095-819-2975
Mail: hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp https://www.hss.nagasaki-u.ac.jp



2025年3月発行

長崎大学大学院
多文化社会学研究科



NAGASAKI
UNIVERSITY
2025

Graduate School of Global Humanities and Social Sciences



研究科長 王 維

現代社会は、歴史上かつてないグローバルな相互依存と表裏一体の危機の時代を迎えています。AIやサイバー空間の登場により現実と虚構の境界が曖昧になる一方で、国際紛争、環境問題、社会の分断といったリスクが複合化しグローバルかつローカルな課題が眼前に広がっています。こうしたグローバルリスクという未体験の課題に直面し、私たちは多様な文化同士が交錯しながら地球規模に延伸する多文化社会の中で共生し、あるべき未来を構想し創造する力量が問われています。

本研究科は、こうした人類全般にとって共通の問いに真正面から向き合う場です。多文化社会をキーワードに社会科学と人文を横断する超域的なアプローチを開拓し、グローバル世界の共生課題を総合的に研究し、持続可能な社会のあり方を探求します。本研究科はすなわち理論と実践を融合した新領域の地平を見据えながら、グローバルリスクに代表される現代の複雑な問題を解決に導く知的探究心と実践的な能力を持つ人材育成を目標にしてきました。国内外の研究者や実務家との協働、多文化共生の現場でのフィールドワーク、学術分野を超えた超域的研究を通じ、学生一人ひとりが主体的に問題解決策を模索し、実践できる環境を整えています。

博士前期課程では、専門知識を深めるとともに、異分野の知見を結びつけ、社会課題の発見・分析・解決に必要な批判力・構想力・実践力を涵養します。博士後期課程では、より高度な専門知をもとに、多文化社会の本質的な課題を捉え、新たな学知を創造し、国際的に発信できる研究者・高度専門職業人を育成します。

多様な価値観が交錯する社会の未来は決して固定されたものではなく、人間の選択と行動によって新たな可能性が生まれます。その中で、私たちは「知の越境」に挑戦し、グローバルかつ複眼的な視点を持ち続ける努力が求められています。本研究科では、国籍や文化など異なる背景を持つ研究者と学生がこうした目標を、新しい知を創造する場を提供します。

新たな視点を獲得し、多文化社会の未来をともに創造していきましょう。

教育理念・目標

長崎大学は、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を掲げ、これを実現するために「現場に強い、危機に強い、行動力のある」人材を育成し、21世紀の知的基盤社会をリードすることを目指しています。そのための重要教育目標の一つは、グローバル化時代の国際的な現場でリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することです。

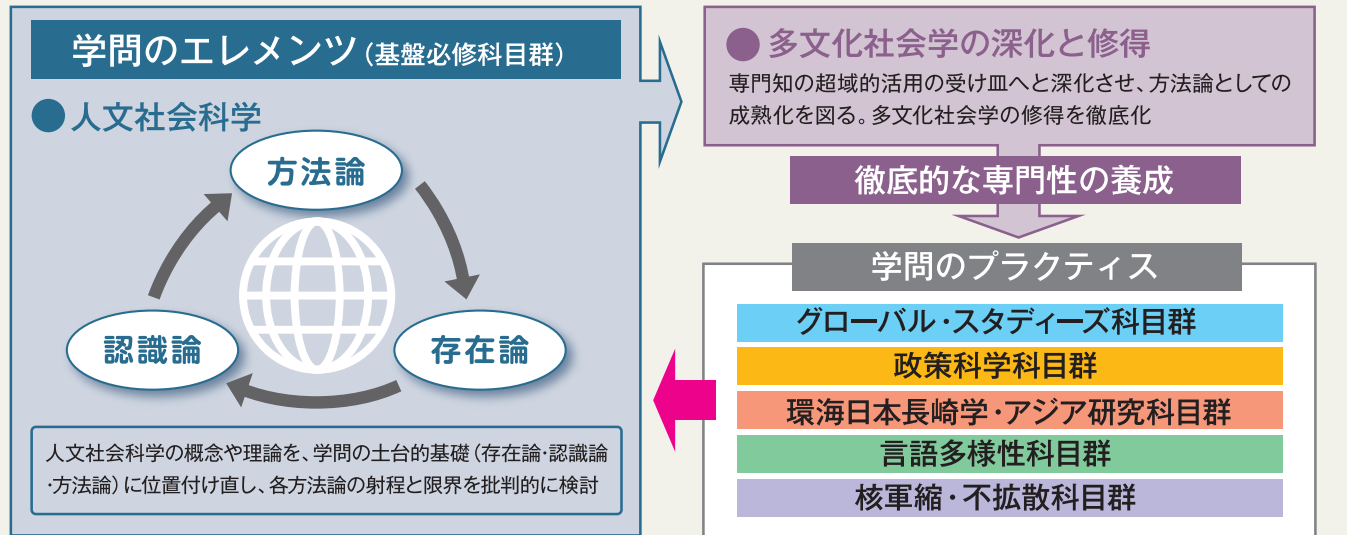
博士前期課程では、21世紀の多文化社会的状況において、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材を養成します。

また、博士後期課程では、21世紀の多文化社会的状況がもたらす諸問題について、「多文化社会学」に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人を養成します。

【博士前期課程】

■ 教員・学生がともに創る新たな学問としての「多文化社会学」

人文社会科学の学問分野は、社会学、言語学・言語教育、歴史学、考古学、政治学、経済学、法学、核軍縮・核不拡散、文化人類学、文学・表象文化、思想・宗教など多岐にわたります。本研究科では、これらの人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—に位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討するとともに、専門知の超域的活用の受け皿へと深化させた、新たな学問としての「**多文化社会学**」を、教員と学生がともに創り上げます。この「**多文化社会学**」の学びを通して、人文社会科学系が本来的に持つ「**批判力**」(現状への批判的反省力)、「**構想力**」(現状打破に向けた展望を提示できる力)、「**実践力**」(領域横断的に知と人を繋ぎ、文化的他者との共生に基づき理念と利害を調整し、計画を実行する力)を修得します。



■ 領域横断型の「多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ」

主選択科目群や指導教員が異なる学生が、科目群横断型の「**多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ**」(必修科目)を共修します。セミナーでは、学問のエレメンツ：多文化社会学(人文・社会)で学んだ専門知、技法、領域横断的枠組みの土台の上で、多文化社会的状況における諸問題の実践的解決法の習得に向けて、ケーススタディ、ディスカッション、レクチャーや研究計画の発表及びブラッシュアップ等を領域横断的に実施します。指導教員以外の教員からも研究指導を受けることができるため、学問的基礎をより確かなものとすることができます。

■ 多様な学外機関(博物館・大学など)との連携

本研究科では、積極的に学外機関と連携し、学生の学びの深化を図っています。

国立歴史民俗博物館との連携 —「総合資料学」の実践—



大学・博物館などが持つ資料を多様なかたちで分析・研究する「総合資料学」を、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、9月上旬に4日間の集中講義として開講します。

博物館のありかたや、展示方法およびその背景にある研究成果について総合展示や膨大な収蔵資料・データベースを通して学んだ上で、

各自対象とする「もの」資料あるいは事象を選び、専門家の助言を基に総合的に分析し、実際に展示構成のプレゼンテーションを行います。

資料単体では得ることのできない情報をさまざまな視点からアプローチして引き出し、研究的資源として幅広く活用し表現する能力は、歴史学の分野に限らず、人文情報学の知識とスキルとして欠かせないものです。

国際基督教大学(ICU)との連携 —国際・平和研究分野の共修と実践—

2019年3月8日、長崎大学と学校法人国際基督教大学(ICU)との間で「国立大学法人長崎大学と学校法人国際基督教大学との包括的連携協力に関する協定」を締結したことに併せて、本研究科とICU大学院アーツ・サイエンス研究科において、「単位互換及び特別研究学生交流に関する覚書」を締結しました。

これにより、双方の大学院生が両研究科の国際・平和研究分野を中心とした授業科目を受講(共修)し、単位を取得することができます(授業はオンラインや集中講義形式で実施)。

博士前期課程カリキュラム・マップ



想定する
入学者

◎人文社会科学系の学部卒業生

◎外国語学部・国際系学部卒業生

◎理系学部・大学院卒業生

◎日本学やアジア研究に関心のある留学生

◎環海日本長崎学・アジア研究に関心のある社会人

◎高度実践力を伴う専門的職業人を目指す社会人

学問のエレメンツ
(6単位)

基盤必修科目群

学問のエレメンツ：多文化社会学(人文・社会)(2)
多文化社会学セミナーⅠ(2)
多文化社会学セミナーⅡ(2)

人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—to位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討・再構築する。

〈身に付く力〉
人文社会系が本来有する批判力(現状への批判的反省力)

学問のプラクティス(16単位)

+

グローバル・スタディーズ科目群

＜目的＞
人文社会科学の見地から文化的他者への理解と共感に基づき、超域的に知と人を繋ぐことで、民族・宗教・文化・国家の摩擦や対立等における存在や意味の多様性に対する否定・反動に対して、専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
文化的他者への理解と共感に基づき、異質なものの総合からイノベーションを生み出す批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎民族、宗教、文化、国家の摩擦や対立
◎存在や意味の多様性に対する否定・反動

文化表象論特講(2) / 特定演習(2)
現代思想特講(2) / 特定演習(2)
現代宗教論特講(2) / 特定演習(2)
ヨーロッパ社会史特講(2) / 特定演習(2)
アフリカ社会論特講(2) / 特定演習(2)
グローバル・ヒストリー特講(2) / 特定演習(2)
カルチュラルスタディーズ特講(2) / 特定演習(2)
East-West Studies 特講(2) / 特定演習(2)
東南アジア地域論特講(2) / 特定演習(2)

政策科学科目群

＜目的＞
既存の国際経済学(上からの視点)と地球上で生活する人々の視点(下からの視点)を調和した「世界政策論」を開拓し、政策・制度・規範と人間の安全保障に関わる問題等について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
政策課題やその費用対効果、政策の適切な方法を学び、政策研究や政策分析を行う批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎不均衡な資源分配に伴うリスク拡大
◎政策・制度・規範と人間の安全保障

国際人権・国際ジェンダー論特講(2) / 特定演習(2)
アジア・アフリカ法特講(2) / 特定演習(2)
経済開発論特講(2) / 特定演習(2)
国際秩序論特講(2) / 特定演習(2)
地域生態論特講(2) / 特定演習(2)
境界文化論特講(2) / 特定演習(2)
多文化家族研究特講(2) / 特定演習(2)

環海日本長崎学・アジア研究科目群

＜目的＞
人文科学と社会科学の連携に基づく諸観点から、日本・アジアと世界の交叉・輻輳のなかで生じる歴史・文化・社会の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
ローカルな文脈に分け入りつつ、普遍的次元で展開可能な方法と理論を構築するための批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎日本・アジアと世界の交叉・輻輳の中で生じる歴史・文化・社会の問題

日本近世史・日蘭交流史特講(2) / 特定演習(2)
文化遺産論特講(2) / 特定演習(2)
海域交流史特講(2) / 特定演習(2)
華僑・華人研究特講(2) / 特定演習(2)
現代日本政治外交論特講(2) / 特定演習(2)

言語多様性科目群

＜目的＞
言語学の多様性を文法的・音声的特性、文化社会的規則や談話レベルの特性等から捉えることで、コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出等、言語が現実構成の基盤にあることへの理解の欠如に関わる問題についての専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
言語学の諸分野における知見をもとに、言語の普遍性と個別性に対する理解を深化させ、様々な言語使用場面、コミュニケーション場面やレジスターに対応した表現の精選と英語プログラムの立案、実施、及び英語教育者に指導助言できる実践力

[解決を目指す主問題]
◎コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出やルール革新等、言語が現実構成の基盤にあることの理解の欠如に関わる問題

言語学基礎研究特講a(2)
言語学基礎研究特講b(2)
異文化語用論特講(2)
談話分析特講(2)
日英対照言語学特講(2)
方言学特講(2)
英語学特講(2)
言語アセスメント特講(2)
言語教育学特講(2)
応用言語学特定演習(2)
日中対照言語学特定演習(2)
生成統語論特定演習(2)
方言学特定演習(2)
言語学特定演習(2)
言語アセスメント特定演習(2)
言語教育学特定演習(2)

核軍縮・不拡散科目群

＜目的＞
核軍縮・不拡散において人文社会科学系と自然科学系及び研究と実務の両側面を兼ね備える(文理融合)ことで、人道面・安全保障・経済等の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
核軍縮・不拡散分野において人文社会系と理工系および研究と実務の両側面を兼ね備えた実践力

[解決を目指す主問題]
◎核軍縮・不拡散が未完のプロジェクトであることで生じる人道、安全保障、経済面等の問題

核軍縮交渉と国際政治特講(2) / 特定演習(2)
原子力平和利用と核不拡散特講(2) / 特定演習(2)
核兵器と国際法特講(2) / 特定演習(2)
核物質管理と核セキュリティ特講(2) / 特定演習(2)

文理融合
プログラム

【学際的総合教育科目】(1~2)

より学際的な視野を広げるための諸科目。開講科目数は20科目程度。

【選択科目】海外留学(短期)(2) 海外留学(中長期)(2) 海外フィールドワーク(2) 国際インターンシップ(2) 総合資料学(2) 統計分析基礎論(2)

研究指導(8単位)

+

Ⅱ

修了要件
30単位

研究指導(8)

主選択した科目群で研究指導を受ける

授与する学位

修士(学術)(Master of Arts)

想定される就職先

商社・食品・製造等のグローバル企業、国際機関、シンクタンク、国際NGO、編集者、記者、アナリスト(国際社会問題等)、国家・地方公務員、教育者、通訳者、研究者

養成する人材像 21世紀社会の多文化社会的状況における諸問題に対して、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる、「多文化社会学」を身につけた人材

■ 標準履修モデル (修了要件 : 30 単位)

1 年次				2 年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
学問のエレメンツ 多文化社会学 (人文・社会) (2)	学問のプラクティス科目 (科目群・選択科目) (16)						
	多文化社会学セミナーⅠ (2)		多文化社会学セミナーⅡ (2)				
	研究指導 (8)						
指導体制の決定 主選択科目群の決定		「多文化社会学セミナーⅠ」を通じた研究 計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて 倫理審査 指導教員による研究指導		「多文化社会学セミナーⅡ」を通じた研究 経過の発表及びブラッシュアップ		中間発表会	学位論文の提出 修士論文成果発表会 論文審査及び最終試験

※ () 内の数字は修得すべき単位数

Pick Up!

【本学の研究活動への参画】

「近世肥前磁器の生産・消費の地域化と世界流通の相関についてーグローバル化の陶磁史ー」
(日本学術振興会 基盤研究 (B) 令和4年度～令和8年度)

本研究では、近世のグローバル化に伴う肥前磁器の世界的流通ルートを解明し、さらに肥前磁器の需要の特質と文化史的位置づけを明らかにする。そのうえで、生産と消費の地域化と流通の地球規模化との関係を考える。

そのために、Ⅰ. 五島等における「肥前磁器の生産地研究」、Ⅱ. 中南米などの「肥前磁器の消費地研究」、それらを基にしたⅢ. 「肥前磁器の生産・消費と流通にみる『グローバル化』の研究」の三つのフェーズを設定し、研究を行っている。

研究活動に参画している大学院生より

【博士後期課程：環海日本長崎学・アジア研究系】 賈 文夢 JIA WENMENG

考古学の研究は、机の上で考える前に、現場で発掘をしなければならない分野です。この研究を進めるために、私は2019年から2024年までの5年間、五島列島の窯跡の発掘調査に参加しました。

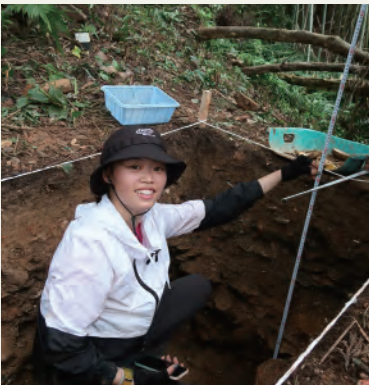
五島列島は長崎県本土からフェリーで約3時間の島嶼群です。この列島の中で最も大きな島は福江島——私たちの発掘現場はこの島にあります。福江島で発掘を行った窯跡は2箇所、いずれも江戸時代に使われた磁器を生産した窯です。長年経って、窯は廃棄され、棚田や林地として利用されていました。その後、現在では窯跡の周辺は人々の活動の減少に伴って、自然に戻っています。

毎年、私たちは発掘現場にたどり着くために、草を刈って道を切り開きます。この時はいつも、自然の力の偉大さを感じます。現場までたどり着くことも困難ですが、実際の発掘作業も決して楽ではありません。まずは調査し、掘る場所を特定することから始まります。場所の特定には、古地図からの位置推測や、同時代の窯の形状を基にした推定や、現代の地形測量などを用います。発掘調査は力仕事であると同時に、繊細な作業でもあります。また、掘る際には地層や遺物の分布を記録しながら作業を行います。そして、発見した遺物の学術的価値を守るため、注記や実測など整理作業を行わなければなりません。

このように大変な困難を伴う調査ですが、発掘や整理作業を通して、肥前磁器の生産・消費と流通の一端を明らかにできたと考えています。



発掘調査の様子



発掘作業を行う賈さん

Student's Voice



Invaluable Experiences in Nagasaki

I am truly grateful for the opportunity to study at Nagasaki University. It is not just a place of learning but an environment that inspires new discoveries, broadens my horizons, and helps me grow as a researcher.

Studying here has given me invaluable experiences—from engaging with professors and students from diverse backgrounds to exploring my academic interests in greater depth. I especially appreciate the support and access to resources that have been instrumental in my research pursuits.

I am thankful to the university for this unique opportunity, and I hope to apply the knowledge and experience I have gained to contribute to my field of study in the future.

Second year of Master's Course
SVIETLOVA MYROSLAVA

[Linguistic Diversity Course Group]

【博士後期課程】

■ 各研究領域における更なる専門化と体系化

博士後期課程では、各研究領域における更なる専門化と体系化を図るため、博士前期課程において設定している5つの科目群を基盤としつつも、その専門性をなお一層深化させた5つの研究領域 (系) を編成しています。博士後期課程を担当する教員はいずれかの系に属しており、学生は指導教員が属する研究領域 (系) に基づいて研究課題にアプローチし、研究指導チームの指導の下、21世紀の「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を養うなかで、持続可能な社会の構築に資する質の高い研究計画を立案し、それに基づき研究を実施します。

< 博士前期課程における科目群 >

グローバルスタディーズ科目群
政策科学科目群
環海日本長崎学・アジア研究科目群
言語多様性科目群
核軍縮・核不拡散科目群

< 博士後期課程における研究領域 (系) >

社会文化研究系
公共政策研究系
環海日本長崎学・アジア研究系
言語研究系
核兵器廃絶・平和学系

■ 標準履修モデル (修了要件 : 16 単位)

1 年次				2 年次				3 年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
多文化社会学特別演習Ⅰ (2)		多文化社会学特別演習Ⅱ (2)									
研究演習Ⅰ (4)				研究演習Ⅱ (4)				研究指導 (4)			
研究指導 体制の決定			中間発表会 研究成果 報告書Ⅰの 作成				中間発表会 研究成果 報告書Ⅱの 作成			予備審査 論文の提出 予備審査	学位論文の 提出 論文審査及び 最終試験
「研究演習Ⅰ」を通じた研究計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて倫理審査				「研究演習Ⅱ」を通じた研究経過の 発表及びブラッシュアップ				指導教員による研究指導			

※ () 内の数字は修得すべき単位数

■ 養成する人材像

21世紀の「多文化社会的状況」がもたらす諸問題について、多文化社会学に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人

■ 授与する学位

博士 (学術) (Doctor of Philosophy)

■ 想定される就職先

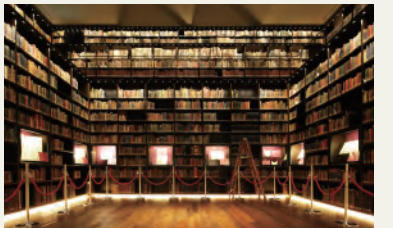
研究者 (留学生の母国の大学や研究機関を含む)、グローバルに展開する企業、国際機関、社会人の学び直しなど

■ 多文化社会学にふさわしい学際性の担保

研究指導は、主指導教員とは異なる研究領域 (系) の副指導教員1名を含む3名の研究指導チームにより行います。必要に応じて学生の研究テーマを考慮して学外の連携機関から学外アドバイザーを選出します。

(学外アドバイザーを選出する主な国内外研究機関)

ライデン大学、国際基督教大学、東洋文庫、国立歴史民俗博物館等



東洋文庫 モリソン書庫

■学位論文審査基準（博士前期・後期課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、学位論文の審査基準を次のとおり定める。

1. 審査体制

学位論文の審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上の計3名以上からなる学位審査委員の合議により行う。

2. 審査方法・評価及び審査項目

学位審査委員は、以下の審査項目を基に論文審査及び最終試験を行い、AA（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、不可（59点以下）で評価する。

なお、論文審査及び最終試験は、論文審査出願者ごとに発表及び口頭試問により行う。

【審査項目】（1）～（4）：前期・後期課程共通 （5）：後期課程のみ

（1）研究目的・テーマ・課題設定の明確性及び適切性

研究目的・テーマ・課題設定が明確、かつ適切になされていること。

（2）先行研究・資料の取り扱いの適切性

先行研究の十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。

（3）研究方法・分析手法の適切性

研究方法・分析手法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行なわれていること。また、先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
※研究計画の立案及び遂行、研究成果の発表、データ等の保管に関して、必要な倫理的配慮がなされていること。

（4）論旨の明確性・構成の適切性

論旨が一貫しており、設定した課題に対応した明確かつ論理的な結論が提示されていること。また、文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等などの体裁が整っていること。

（5）上記の基準に加えて、当該学問分野における研究を発展させるに足る学術的意義・価値が見いだせること。また、その点に基づいて、論文審査出願者が近い将来、自立した研究者として活躍していく確かな研究能力及び豊かな学識が認められること。

■ 修士論文タイトル（修了生の一例）

グローバル・スタディーズ科目群

Literary Representations of Japan in the Works of Haruki Murakami and David Mitchell
マッピングで考える長崎を舞台にした日本の小説について

政策科学科目群

移り変わるベトナム系コミュニティ—長崎のカトリック教会に集う若者たちの生活世界の視点から—
族際婚姻したモンゴル族母親の教育戦略—民族教育を受けた母親の語りを手がかりとして—

環海日本長崎学・アジア研究科目群

在日華人子女に対する中華文化の教育と伝承に関する研究 —長崎における華人子女を対象に—
中国におけるキア主義の展開についての理論的考察—社会構造、権力とセクシュアリティを中心に—

言語多様性科目群

Examining the Impact of Watching English Videos with Bilingual Subtitles on Japanese University Students' L2 English Vocabulary
中学校期における英語発信能力の育成 —英作文表現の効率化に向け、語彙がもつ「コア・イメージ」を活かした語彙指導・文法指導の実践—

核軍縮・不拡散科目群

韓国人被爆者：「語り」から見る社会的被害の特徴分析
北東アジアにおける非核化と日本の安全保障—日米同盟の視点からみた「朝鮮半島の非核化」と「北東アジア非核兵器地帯」の比較考察—



【卓越大学院プログラム】

アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム
Applied Humanities Program for Cultivating Global Leaders



■ プログラム概要

本プログラムは、人文科学の発想を基礎に据えながら、進化したDigital Humanitiesの方法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示し得る、刷新された人文的学知 Humanities Innovationに基づく大学院教育プログラムを「臨床人文学」という概念で位置づけ、アジアユーラシアを主とした国内外の多様な機関との横断的連携ネットワークによる「臨床人文学」の学びをとおして、現代社会の課題に対して、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知に基づいて多様な存在と協働し、ダイバーシティ社会を主導していくトップマネジメント人材を養成する、5年一貫の博士課程学位プログラムです。

【連携先機関】 千葉大学（◎主幹校）、岡山大学、熊本大学、総合研究大学院大学、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院（中国）、ロシア人文学大学東洋古典学研究所（ロシア）、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社JTB総合研究所、千葉銀行	
---	--

■ プログラムの特徴

◎本プログラムは、文部科学省「卓越大学院プログラム」事業が支援する学位プログラムです。

◎アジアユーラシア研究とDigital Humanities 2.0を2本柱とした5年一貫型のカリキュラムを学びます。講義・演習科目の他、アジアユーラシアでのフィールド・リサーチやプログラム学生を一同に会した合同コロキウムを開催します。

◎研究科の修了要件単位数に加えて、プログラム修了に必要な単位を修得します（博士前期：12単位、博士後期：8単位）。

◎修了者の学位記に、プログラムを修了したことを付記します。

◎原則、プログラム学生にRA経費等の経済支援を行います。 ※本学の財政状況により変更の可能性有

■ 標準履修モデル（博士前期課程）

プログラム履修生は本研究科の授業科目に加えて、以下のとおりプログラムに必要な授業科目（単位）を修得します。

1年次				2年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	アジアユーラシア研究法 (1)						
	Digital Humanities 2.0 研究法 (1)	その他、選択必修科目 (6) (本研究科又は連携大学が提供する授業科目から履修)					
	統合研究演習Ⅰ (2)			統合研究演習Ⅱ (2)			
学生の募集・決定 指導体制の決定	合同コロキウム				合同コロキウム		リサーチペーパー (修士論文) の提出 ゲート審査
			フィールドリサーチ (国外1か所以上を含む2か所以上) 「統合研究演習Ⅰ・Ⅱ」を通じた研究計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ				

※（ ）内の数字は修得すべき単位数

Student's Voice



博士前期課程 1 年
濱崎 悠花
HAMASAKI Yuka
【環海日本長崎学・アジア研究科目群】

垣根を超えた学びで、自らの研究を多角的に捉える

1571年に開港した長崎が、どのように国際貿易都市へと発展を遂げたのか、その基盤がどう形成されたのか——？ このことを明らかにすることを目的に、16世紀後半から18世紀にかけての長崎の様相について研究しています。私の研究では、文献調査が中心となるため、特に、テキストマイニングのノウハウを習得したいと思い、卓越大学院プログラムに応募しました。

このプログラムでは、必修科目である「アジアユーラシア研究法」「Digital Humanities 2.0」のほか、自身の専門分野や研究内容、調査方法に合わせ、学校や専門分野の垣根を越えて講義を選択することができます。年に一度の合同コロキウムでは、研究発表や交流を通して、自身の研究を客観的な視点から見つめ直すことができます。さらに、今年は帝国データバンクの見学や、JTB総研のインターンシップなどに参加し、自身の研究がどのように社会と結びつくのか、どのように活かせるのかを深く考える機会をいただきました。

卓越大学院プログラムによって、自身の研究を多角的に見る力を培うことができます。また、人文学ならびに専門分野の伝統的な研究方法に限らず、これからの新しい人文学研究方法を習得する機会を得ることができます。

研究環境・学生支援制度

■ 院生研究室等

院生研究室の建物には、個人用デスクのほか、ディスカッションができるフリースペース、複合機、WiFiなど、個人の研究やグループでの活動ができる快適な研究環境を整備しています。



院生研究室

フリースペース

院生専用の複合機

■ 研究室周辺の環境

大学院生の研究活動を支援するため、大学院生専用の研究科演習室のほか、スキャナを備えたDigital Humanities Lab、専門書や修士論文等を配架した多文化図書室を備えています。



研究の息抜きに利用できる談話室

スキャナを備えたDigital humanities Lab

専門書を配架した多文化図書室

■ 長期履修制度

標準修業年限での修学が困難な事情にある者については、標準修業年限に納付すべき授業料で標準修業年限の2倍までの履修期間を申し出て認定を受けることができます（博士前期課程：4年、博士後期課程：6年）。

【対象者】職業を有し、就業している者、家事・育児・介護等に就いている者、障がいのある者 など

■ 教育職員免許状

高等学校教諭一種免許状（英語）を有する者は、本研究科博士前期課程において所定の単位を修得すれば、高等学校教諭専修免許状（英語）を取得することができます。

就職・進学先の主な実績（社会人学生を含む）

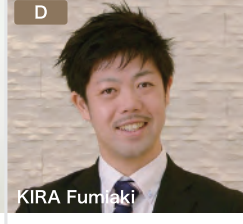
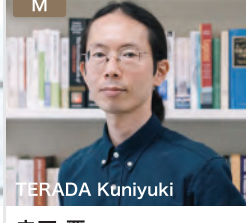
【就職先】長崎ウエスレヤン大学、長崎大学教育学部附属中学校（英語科講師）、大村市 社会福祉法人 ことの海会、中国陕西省咸陽市百灵高校（日本語教師）、延岡市役所、みずほ銀行、株式会社モスフードサービス、株式会社イーオン、中国天津電装電機有限公戸公司、日本ヒルトン株式会社、共同通信社、ルネサス エレクトロニクス株式会社、株式会社サイバーエージェント

【進学先】多文化社会学研究科博士後期課程進学



知識と経験を“深化”させてくれる教員と学びとの出会い

（M：博士前期課程担当、D：博士後期課程担当） ◎：主な研究テーマ ※教授（アイウエオ順）、准教授（アイウエオ順）、助教（アイウエオ順）に掲載しています

D  IDA Yoko 井田 洋子 教授 ◎国家論 ◎政教分離 ◎平和学	M/D  KIMURA Naoki 木村 直樹 教授 ◎日本近世史 ◎交流史	M/D  KOMATSU Satoru 小松 悟 教授 ◎開発経済学 ◎環境経済学	M/D  SAITSU Yumiko 才津 祐美子 教授 ◎民俗学・文化人類学 ◎文化遺産研究	M/D  SAIHANJUNA 賽漢卓娜 教授 ◎家族社会学 ◎移民研究	M/D  SUZUKI Akiyoshi 鈴木 章能 教授 ◎比較文学 ◎英米・英語圏文学
M/D  SUZUKI Tatsuro 鈴木 達治郎 教授 ◎原子力平和利用 ◎核軍縮・核不拡散	M/D  NISHIHARA Toshiaki 西原 俊明 教授 ◎コーパス言語学 ◎応用言語学	M/D  NOGAMI Takenori 野上 建紀 教授 ◎考古学 ◎海上交易史	M/D  HAYANAGI Kazunori 葉柳 和則 教授 ◎文化表象論 ◎文化社会学	M/D  HOSODA Naomi 細田 尚美 教授 ◎文化人類学 ◎移民研究	D  MAEDA Keiko 前田 桂子 教授 ◎日本語学・方言史
M/D  MORIKAWA Yuji 森川 裕二 教授 ◎国際政治学 ◎東アジア国際関係	M/D  ANG Xiaoan 楊 晓安 教授 ◎実験音声学 ◎統語論	M/D  YOSHIDA Fumihiko 吉田 文彦 教授 ◎核軍縮・核不拡散 ◎軍備管理条約	M/D  WANG Wei 王 維 教授 ◎移民/マイノリティ研究	M/D  ANEGAWA Yudai 姉川 雄大 准教授 ◎歴史学 ◎ヨーロッパ近現代史	M/D  CUTRONE Pino カトローニ ピノ 准教授 ◎応用言語学 ◎語用論
M/D  KAWAMURA Arinori 河村 有教 准教授 ◎アジア法（人権/ジェンダー/平和） ◎刑事法学	M/D  GUELBEYAZ Abdurrahman ギュルベヤズアブドゥラッハマン 准教授 ◎記号論 ◎文化理論	D  KIRA Fumaki 吉良 史明 准教授 ◎日本近世文学 ◎日本思想史	M/D  COMPEL Radomir コンペル ラドミール 准教授 ◎比較政治学 ◎日本政治史	M/D  SATO Yasuaki 佐藤 靖明 准教授 ◎民族生物学 ◎アフリカ地域研究	M  SHIRAI Shoji 白井 章詞 准教授 ◎キャリア教育
D  NAKAJIMA Yuri 中島 ゆり 准教授 ◎教育社会学	M/D  NISHIKAWA Mikako 西川 美香子 准教授 ◎応用言語学（言語テスト） ◎英語教育	D  HATANAKA Taiji 畑中 大路 准教授 ◎教育経営学 ◎教育行政学	M/D  HARADA Soichiro 原田 走一郎 准教授 ◎方言学 ◎記述言語学	M/D  MINAMI Makoto 南 誠 准教授 ◎歴史社会学 ◎国際社会学	M/D  MORI Motonao 森 元斎 准教授 ◎哲学 ◎現代思想
M/D  TAMURA Koki 田村 康貴 助教 ◎倫理学	M  TERADA Kuniyuki 寺田 晋 助教 ◎社会理論 ◎国際社会学				

各教員のプロフィールや研究テーマについて、詳しくは大学院のWEBサイトをご覧ください。

